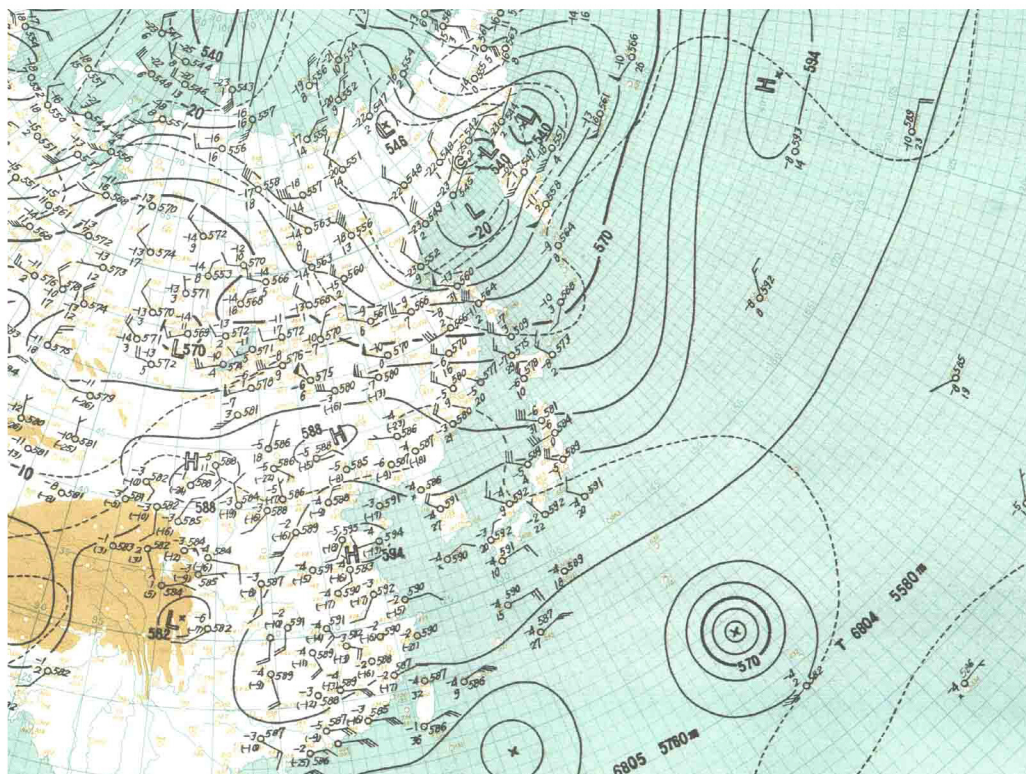


1968年7月22日：寒冷前線による雷雨と降ひょう

気象庁500hPa天気図：1968年7月22日21時



日立市気象年報1969年(1969年3月発行)から抜粋

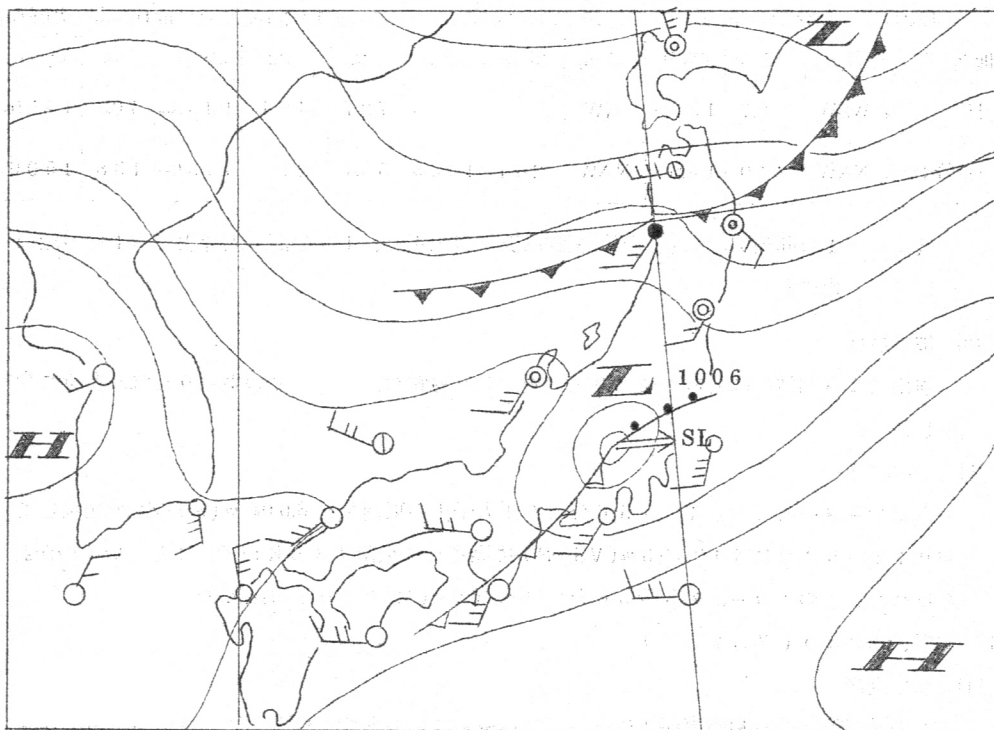
4. 雷雨、降ひょう(7月22日)

(1) 気象概況

太平洋高気圧が本州の東海上にあつて、本州を広くおおつていたため、日中の気温が30℃を越え午前中に最高気温が31.4℃を示した。低気圧が北海道の東沖にあつてこれに伴う寒冷前線が南西にのび秋田沖にあつたが次第に南下をはじめ、本州中部に地形性低気圧が発生した。

日立地方では16時50分ころから雷雨となり22時すぎまでつづいた。(第7図参照)

第7図 昭和43年7月22日15時地上天気図



(2) 気象記録

(a) 日立の毎時の風向風速

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
要素											
風向	SE	SSE	SE	ESE	SSW	SSW	SW	SSW	S	S	NW
風速	1.0 ^m	1.5	2.5	1.7	1.7	2.0	2.2	2.3	2.0	2.0	3.0

(b) 雷雨とひょう

要素 地名	降水量	ひょう	雷の強さ	記 事	
日立	26.2 <small>mm</small>	有	強	$\phi = 5 \sim 20$ <small>mm</small>	17.30 ~ 19.00
神峰山	52.9	有	強	$\phi = 7 \sim 15$ <small>mm</small>	17.15 ~ 17.48

(c) 気象表 (1968.7.22)

要素 地名	最大風速			最大瞬間風速			1時間最大降水量		10分間最大降水量	
	風向	風速 <small>m/s</small>	時分	風向	風速 <small>m/s</small>	時分	<small>mm</small>	時分	<small>mm</small>	時分
日立	WSW	7.2	18.30	SSW	10.6	18.36	21.0	17.50	7.0	18.00
神峰山	NW	8.3	20.38	WSW	12.3	18.46	3.94	17.24	13.8	17.40

(3) 被害状況

(a) ひょうによる被害

22日16時ころから県北の山間部に発生した雷雨は17時30分ころから日立地方でも雷雨となり18時30分から19時にかけて、市内、東河内、中深萩、下深萩、森山、大沼、水木、久慈地区に1.0~2.0cm所により鶏卵大の降ひょうがあつて「葉たばこ」や屋根用のスレート、プラスチック波板、雨どい、窓ガラスなどの被害があつた。

○ 「葉たばこ」の被害(農林水産課調)

東河内地区

被害程度	80%	70%	50~70%	30~50%
面積	30アール	30アール	22アール	32アール

○ 小中学校などの被害(教育委員会調べ)

水木幼稚園、水木、中里小学校。坂本、泉ヶ丘、久慈中学校、南部学校給食共同調理場などで約43万円。

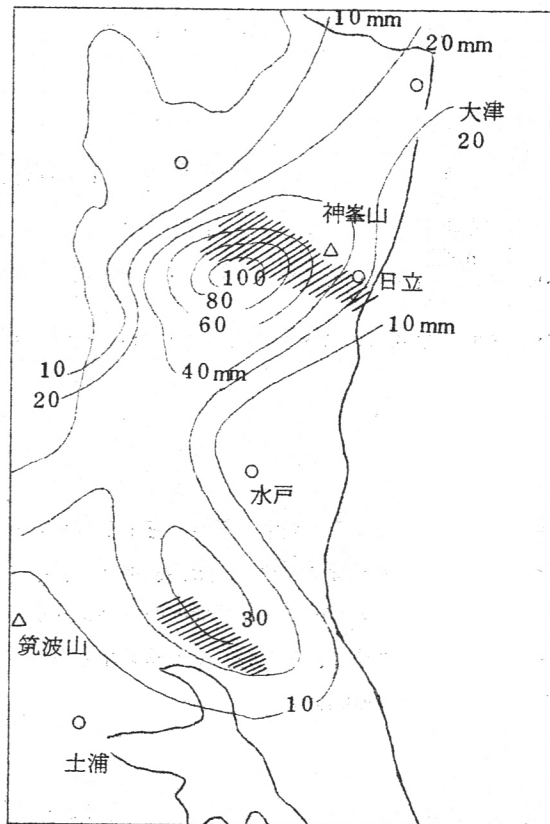
窓ガラスの被害では久慈中学校がもつともひとくついて泉ヶ丘中学校、水木小学校が多かつた。

一般民家の被害を合せるとひょう害としては近来にない大被害であつた。

(b) 落雷による停電

日立管内8ヶ所、17時54分～24時50分 (第8図参照)

第8図 7月22日降水量の分布と降ひょう地域(//////)



(4) 参考資料

東京レーダーによれば、14、15、16時には横雲系の雲は観測されず、17時05分に大子附近に14,000m(V.S)が認められ、富士山レーダーによると17時02分に16,000m(V.S) - 17時54分に日立上空から大子にかけて15,000m(V.S)を観測し、この横乱雲は南南東15Kmで南下していた。さらに19時00分には那珂湊沖に13,000m(V.S)日立から大子にかけては8,000m(V.S)が観測された。

V.S : (Very Strong)の略